

熊本大学広報誌

熊大通信

vol.

46

2012 AUTUMN

歴史、そして物語へ

ヒストリー

ストーリー

熊大文化遺産のこれから



国立大学法人
熊本大学

Kumamoto University



CAMPUS SCENES キャンパスの風景

オープンキャンパス

本荘・九品寺・大江キャンパスでは8月8日、黒髪キャンパスでは10日、今年も大勢の高校生が本学キャンパスを訪れた。各学部の趣向を凝らした研究室紹介のほか、スタンプラリーなども行われ、学部を越えてキャンパス各所を巡り歩く、高校生の姿が見られた。





熊本通信 46

2012 AUTUMN

vol.

熊本大学広報誌 熊本通信

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

- 【発行】 国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119
Fax.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp
- 【編集】 熊本通信編集委員会
田中 智之／委員長・大学院自然科学研究科
大辻 正晴／文学部
黨 武彦／教育学部
朝田 康禎／法学部
中田 晴彦／大学院自然科学研究科
永田 千鶴／大学院生命科学研究部
首藤 剛／大学院生命科学研究部
田中 尚人／政策創造研究教育センター
西村 兆司／マーケティング推進部広報戦略ユニット
- 【制作】 株式会社カラースプランニング

CONTENTS

- 03 特集Ⅰ 歴史、そして物語へ
熊本文化遺産のこれから
- 09 研究室探訪 画期的な創薬につながる新しい“触媒”を求めて
有機化学の技を磨く
薬学部 中島研究室
- 11 特集Ⅱ 大学生から高校生へ真剣に伝えたいメッセージ
ラジオドラマ「17歳の保健室」
- 15 国際交流 インタビュー
熊本大学から世界へ 末次洋輔さん
世界から熊本大学へ ラミレス・バルデス・クリステル・パオラさん
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

表紙／明治22年の竣工当時、サインカーブから見た旧制第五高等学校本館（現・五高記念館）
（写真：富重写真所蔵）



ヒストリー

ストーリー

特集Ⅰ

歴史、そして物語へ

熊大文化遺産のこれから

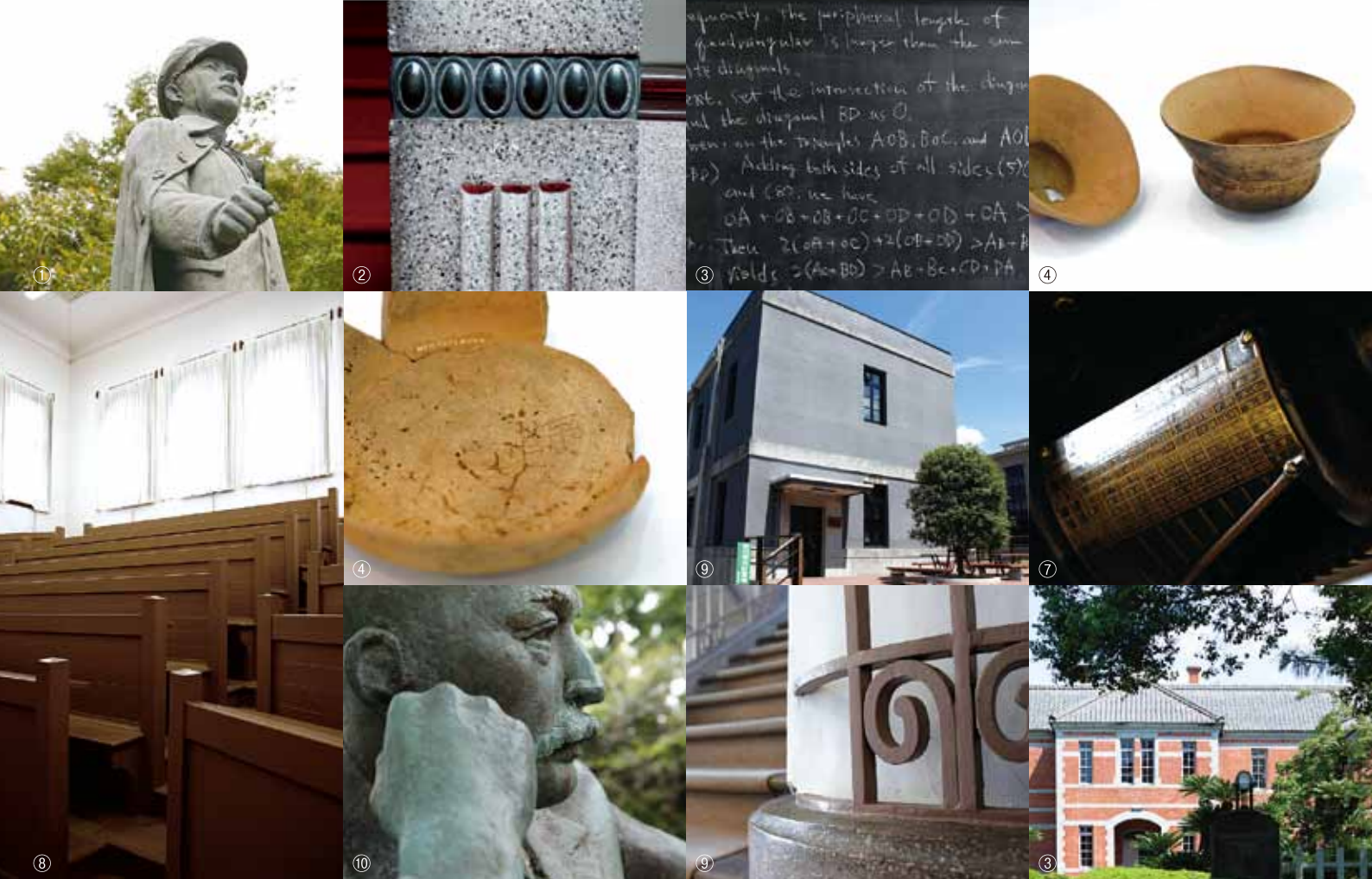
熊本大学には第五高等学校本館として建造された五高記念館をはじめ、
数々の歴史的建造物が受け継がれている。
また、医学部や薬学部は細川藩ゆかりの歴史と伝統を今に伝えてきた。
今号では、黒髪キャンパスを中心に、
“知”の拠点・大学が有する文化遺産の活用について特集する。

熊本大学の各キャンパスには、五高記念館に代表される国指定重要文化財や登録有形文化財に指定された山崎記念館（医学部）などの建造物が点在している。そのほかにも細川家より寄託されている「永青文庫」をはじめとする史資料や遺跡などの埋蔵文化財、薬学部に伝わる細川藩の薬草園「蕃滋園」などもあり、多彩な文化遺産が受け継がれている。

これまで文化遺産は、モノを保存することを第一として、「守る」ことに重きを置いてきた。しかし、これからは、貴重な歴史資産を「活かす」ことを考えていかねばならない。今、熊本大学が有する文化遺産の社会的価値が問われている。

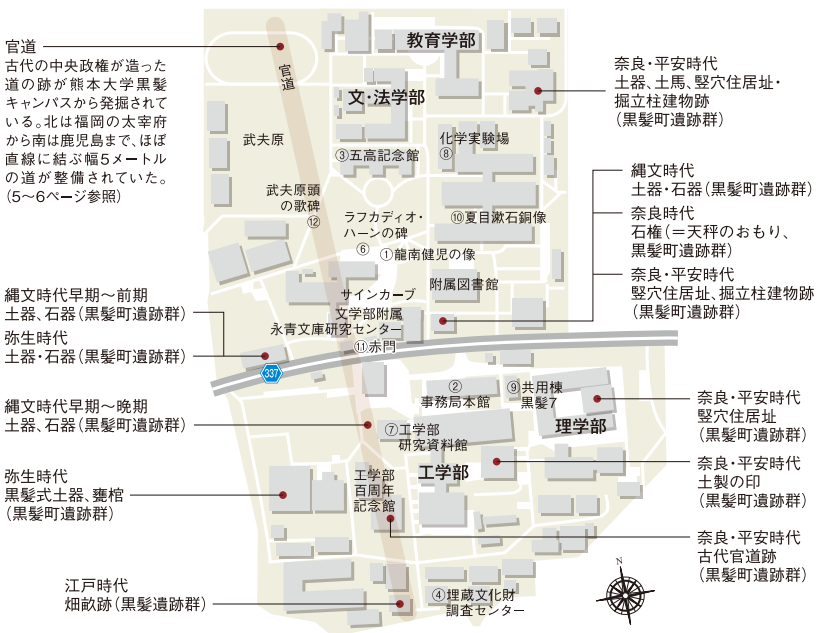
現在、熊本市都市部に位置する黒髪キャンパスでは、文化遺産を活用しつつ、居住性・機能性を高め、さらに地域に拓くことを目的とした「熊本大学歴史地区保存整備・利活用計画」が進められている。

今号では、地域の風土、歴史や文化を活かしたまちづくりのための政策立案や、その実践のための研究を行っている熊大通信編集委員・田中尚人（熊本大学政策創造研究教育センター准教授）が、「熊本大学埋蔵文化財調査センター」と黒髪キャンパスの文化遺産を活用した「熊本大学歴史地区保存整備・利活用計画」に携わる人々に話を聞いた。



① 龍南健児の像 ② 熊本高等工業学校本館(現 事務局本館) ③ 第五高等学校本館(現 五高記念館) ④ 埋蔵文化財調査センター ⑤ 熊本医科大学山崎記念図書館(現 山崎記念館) ⑥ ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の碑・レリーフ ⑦ 熊本高等工業学校機械実験工場(現 工学部研究資料館) ⑧ 第五高等学校化学実験場(現 化学実験場) ⑨ 熊本高等工業学校標本館(現 共用棟黒髪7) ⑩ 夏目漱石の銅像・句碑 ⑪ 第五高等学校表門(現 通称「赤門」) ⑫ 五高寮歌「武夫原頭」の歌碑

【黒髪キャンパスに点在する主な文化遺産】



【年表で見る熊本大学の主な文化遺産】

縄文・弥生	縄文時代早期~晩期 土器、石器(黒髪町遺跡群)
	縄文時代晩期 土器(本庄遺跡)
	弥生時代~古墳時代 仿製鏡(=国産の銅鏡 本庄遺跡)
	弥生時代中期 黒髪式土器、甕棺(黒髪町遺跡群)
古墳・古代	古墳時代 鉄鏃(=やじり) 黒髪町遺跡群)
	奈良時代 石権(=天秤のおもり) 黒髪町遺跡群)
	奈良・平安時代 文字が書かれた土器(本庄遺跡)
	奈良・平安時代 土器、土馬(黒髪町遺跡群)
	奈良・平安時代 竪穴住居址・掘立柱建物跡(黒髪町遺跡群、本庄遺跡)
	奈良・平安時代 古代官道跡(黒髪町遺跡群)
	奈良・平安時代 土製の印(黒髪町遺跡群)
	奈良・平安時代 住居址、小児蔵骨器・道路跡(大江遺跡群)
中世・近世	江戸時代 畑畝跡、近世・近代墓(黒髪遺跡群)
近代	明治22年 第五高等学校本館(現 五高記念館) ※国指定重要文化財
	明治22年 第五高等学校化学実験場(現 化学実験場) ※国指定重要文化財
	明治22年 第五高等学校表門(現 通称「赤門」) ※国指定重要文化財
	明治41年 熊本高等工業学校機械実験工場(現 工学部研究資料館) ※国指定重要文化財
	大正14年 熊本高等工業学校本館(現 事務局本館) ※登録有形文化財
	大正14年 熊本高等工業学校標本館(現 共用棟黒髪7)
	昭和 6年 熊本医科大学山崎記念図書館(現 山崎記念館、本庄キャンパス) ※登録有形文化財



古代と現代をつなぐ

教育・社会への知の還元

熊本大学埋蔵文化財調査センター長 木下 尚子 教授

熊本大学埋蔵文化財調査センター 大坪 志子 助教

聞き手／熊本大学政策創造研究教育センター 田中 尚人 准教授

「考古学の役割は、モノの情報を記録し、モノの価値を伝えることだと思っておりますが、文化財を掘って報告書にまとめるまで、どんな思いでモノに向き合っておられるのですか？」

木下 掘っているときは、ただ無心ですよ。発掘調査では考えながら、先を読むことがとても大切です。遺物だけでなく、土や出土した位置、順番などには古代人が残した情報が隠されていて、それを意識しながら作業をすると、目に見えない当時の暮らしが蘇ってきます。モノと無言の会話をしながら、出土品や状況を読んでいくことが研究の基本ですね。

大坪 例えば、甕（かめ）が出土したときの重要な情報は土。甕が他所の土で作られていたら、その甕は持ち込まれてきたということ。現地の土であれば、技術が伝承されたと考えられるんです。

遺産を大事にしようと思わなければ
価値があるモノも文化遺産にはなれない。

嫁入り道具に甕を持ってきたのか、あるいはお母さんから習った技術を持って嫁ぎ、ここで作ったのかなど、当時の人々の姿が目には浮かびますね。研究者がしっかりと遺物に向き合うと、モノが雄弁に語り始める。それが考古学の面白さだと思います。

―なるほど。まず、「それが在ったように掘る」。地面に埋もれていたモノの価値を顕在化させることが、大切なのですね。掘り起こされたモノの向こうに、当時の文化や風景が見えるのですか？

大坪 例えば、黒髪北キャンパスの武夫原（*）から南



黒髪南キャンパス・工学部研究資料館付近で出土した縄文時代早期の土器

キャンパスの工学部百周年記念館の土中には、古代の地方行政機関である「大宰府」（現 福岡県太宰府市）へと続く官道が存在するんですよ。平安中期に編さんされた「延喜式」には「蚕養（こかい）駅」という記述もあって、現在の子飼周辺がそれに当たっているのではないかと長く推察されてきました。学生の方々には毎日歩いているキャンパスの下には遺跡があり、人類の遺産が眠っていることを知ってほしいですね。

―私は、大学という文化遺産の宝庫に、埋蔵文化財調査センターがあることがとても重要だと思っています。先生は、その意義について、どうお考えですか？

木下 大学ではキャンパスの再開発や環境整備のために日常的に地面を掘っています。当然地下の遺跡を壊さなければならぬ場合も多く、事前に考古学の発掘調査が必要になります。大学の埋蔵文化財調査センターは、この開発や整備が、なるべく遺跡を壊さずに滞りなく進むよう調整し、発



発掘に着手する前から調査は始まっている。文献を調べることから始まり、発掘・復元などの作業を経て、報告書をまとめるまでの長い道のりだ



木下 尚子 Naoko KINOSHITA
熊本大学埋蔵文化財調査センター長・文学部教授
九州大学大学院文学研究科修了。1995年熊本大学文学部助教、1998年同教授。2005年熊本大学埋蔵文化財調査室長を経て、2011年10月より現職。専門分野「環中国海地域の考古学」。第6回雄山閣考古学賞受賞。第20期日本学術会議会員に選出



大坪 志子 Yukiko OTSUBO
熊本大学埋蔵文化財調査センター助教
熊本大学大学院文学研究科修了。1997年より熊本大学埋蔵文化財調査室へ。調査室助手を経て、2005年より熊本大学文学部助教。2011年大学院社会文化科学研究科博士後期課程修了。同年10月より現職。専門分野「東アジアの墓制と装身具」



本荘キャンパスでは、ヘラ書きで文字を記した土器が大量に出土した



工学部研究棟I付近では奈良～平安時代の土製印が出土。「国」と読み取れる

掘が必要なのは大学専用に調査をしています。大学ですから遺跡や遺物を学術的に評価して、現代に生かすことに意義があると思っています。
 「それは、とても大切なことですね。単に埋まっているモノを遺産にできるかどうかは、人次第ということですね。学内の文化遺産を活用するためのキーワードは何だとお考えですか？」

木下 教育や研究、そして地域への「還元」ですね。埋蔵文化財調査センターは地域の歴史を掘り起こし、埋もれていた文化や情報を明らかにして、社会教育に生かしていくことが使命の一つだと考えています。研究成果はまず大学教育に生かし、学外へとオーバーフローさせて地域へと拓いていく。「知の財産」を広く社会へ還元し

掘が必要なのは大学専用に調査をしています。大学ですから遺跡や遺物を学術的に評価して、現代に生かすことに意義があると思っています。

「それは、とても大切なことですね。単に埋まっているモノを遺産にできるかどうかは、人次第ということですね。学内の文化遺産を活用するためのキーワードは何だとお考えですか？」



本荘キャンパスから出土した古墳時代前期の土器。古代人は台に乗せてろくろのような道具を使っていたようだ。美しいフォルムを呈している



考古学の魅力は「遺物の向こうに当時の人が見えること」と語る木下教授。無言で語り掛けながら研究を進めていく

ていきたいですね。どんな文化遺産も、人が「遺産」と思わなければ遺産にはなりません。そのためにも学内外の皆さんに広く知ってもらうことが大切です。
 大坪 センターには、土器や石器その他の出土品が保管されており、修復作業などの様子やレプリカではない本物の出土品を間近に見ることもできます。また、専任の職員から、遺跡や出土品についての解説も聞くことができます。大学という研究・教育機関であるからこそ、その遺跡や遺

しっかりと向き合うとモノが雄弁に語り始める、それが考古学の面白さ。

物が持つ価値を、歴史学の面白さとともに伝えることに重きを置いていきたいですね。

「遺産を研究し、教職員や学生、社会にその価値を伝える。埋蔵文化財調査センターがあるからこそできる研究や教育、まさに大学ならではの文化遺産の活用ですね。」

大坪 本荘キャンパスには、古墳時代前期から古代の遺構（建物や溝など）のほか、周辺でも数少ない弥生時代の遺構も確認されています。中でも「杵本寺」や「杵本」という文字を彫った土器などが出土し、調査の結果、有力豪族の氏寺が存在したことが分かり、九品寺という地名の由来であることが明らかになりました。また、黒髪キャンパスや本荘キャンパスの界限は、役所や寺院、そして人々の住居が立ち並ぶ重要なエリアであったことも推察されます。

こうした文化財が学内にあることで、専門家が十分な学術調査や研究を行い、キャンパスの再開発などへの提言も行っていくことができる。遺物をストレートに教育・研究に活かすことのできる大学が、遺跡を有することの意義は大きいと思います。

「キャンパスの地下に眠る文化遺産を掘り起こし、その価値を研究・教育に活かし、地域へ還元する。埋蔵文化財調査センターは、熊大文化遺産活用の鍵ですね。」

* 武夫原(ぶぶげん)：第五高等学校当時の運動場の呼称



熊本大学埋蔵文化財調査センター
 平成6年に熊本大学埋蔵文化財調査委員会が発足し、埋蔵文化財調査室を設置。平成23年に学内共同教育研究施設となり、熊本大学埋蔵文化財調査センターとしてスタートした。

工学部百周年記念館から武夫原へ、この地中に官道が眠っている。大坪助教の説明にも熱が入る



出土した遺物は必要に応じて修復を施す



“知”は時空を超えて

大学は“知”の文化資源

熊本大学法学部 岩岡 中正 教授

—熊本大学には、第五高等学校時代に教鞭を執った先生方の軌跡や、多くの卒業生たちの業績など、目に見えない文化遺産も数多く存在しますね。

岩岡 赤門から五高記念館をつなぐ道。かつて学生が名付けたサインカーブと呼ばれる道は、熊本大学にとって大変シンボリックなものです。当時、この道は川を渡る橋がかけてられていて、周囲はそば畑。五高の所有地を近隣の農家に貸し出しており、季節になれば白いそばの花がサインカーブを彩っていました。俳人として知られていた漱石は、ここで「いかめしき門を這入れば蕎麦(そば)の花」と詠んでいます。これも熊本大学ならではの立派な文化遺産の一つですよ。

—この道が今なおキャンパスに存在し続けていることは、意味深いですね。

岩岡 サインカーブはたくさん卒業生たちが通った道。歴史や時間は流れて消えてしまうのではなく集積していきます。この道の上に立つということは、自己確認に通じます。“道”とは自ら切り拓いて作っていくものであり、“知”もまさに同じですね。この道は地域という横軸につながり、また時空を超えて歴史の縦軸にもつながっています。熊本大学のこれからの課題は、三つのキャンパスの“知”をどうつないでいくか。縦軸と横軸へ大学の“知”をどう拓いていくかが非常に大切です。

—先生は“知”の拠点である大学の文化遺産とは何だと考えられますか？

岩岡 そうですね、大学は“遺産”というよりも“知”の文化“資源”ないし“資産”。大学が時代変動を見据えながら、価値に

目覚め、時代の共通課題を発見し、その解決策である“知”を社会へ還元していく。熊大そのものが“文化基盤”なんです。文化とは、より良く生きる価値観であり、社会は大学に新しい価値観の創造を求めています。大学が有する多様性と総合性をフルに生かして、時代が提示する課題を解決することや大学の“知”を未来へ活かすことこそ、知的資源としての大学の大きな役割りの一つですね。

—大学が文化遺産を資産として活用し、新たな価値を創造するのですね。近年、地域の課題解決にも、大学の果たす役割りが大きいと言われています。

岩岡 その問題解決の糸口もまた、地域に埋まっているんですよ。地域から得た“答え”は、新しい“知”であり、新しい時代構築を支えるもの。そうやって地域から社会を変えるための“基盤”が大学なんです。目の前にある課題や長い射程での課題に込えられるかどうか、大学の力が問われているといえるでしょう。

—研究のみならず、社会や地域にも広く目を向けられる学生を育てることも、大学の重要な役割りですね。

岩岡 文理融合といわれるように学際的な取り組みの中で、さらに上位の価値観を育み、時代の大きなパラダイムシフトに対応できるような、本当の問題解決能力を培

ていくことが重要です。こうして輩出した人材もまた、地域と大学にとって大きな資源となります。

—形あるものだけでなく、知や文化、人材など、熊大の大切な文化遺産を歴史の中に見出し、未来に活かすことができる“資産”とする必要がありますね。



岩岡 中正 Nakamasa IWAOKA
熊本大学法学部教授

九州大学大学院修了後、ロンドン大学L.S.E.へ留学。1980年より熊大へ、西洋・日本の政治思想史の中でも近代思想および共同性の思想を研究。著書「詩の政治学」で博士(法学)。その他「ロマン主義から石牟礼道子へ」、「石牟礼道子の世界」など。俳人として知られ、句集「春雪」で第50回熊日文学賞、評論「虚子と現代」で第11回山本健吉文学賞など受賞多数。専門分野「政治思想史」



赤門からサインカーブを経て、五高記念館を望む

文化遺産はアクティブであれ

熊本大学歴史地区保存整備・利活用計画

大学院自然科学研究科 田中智之 准教授

「現在、南北の黒髪キャンパスで文化財を活用すべく「熊本大学歴史地区保存整備・利活用計画」が進められていますね。

田中 2011年4月にスタートしたプロジェクトで私が黒髪北キャンパスを、星野裕司准教授が黒髪南キャンパスを担当しています。樹木の配置や人の流れ、駐輪の実態など、現在のキャンパスの問題点を洗い出し、両研



田中 智之 Tomoyuki TANAKA
熊本大学大学院自然科学研究科准教授・学長特別補佐
早稲田大学大学院理工学研究科修了。早稲田大学助手、同客員講師を経て、2005年より現職。2011年より学長特別補佐。専門分野「建築設計・建築計画・建築表現」

【整備・利活用計画の概要イメージ】



研究室合同ゼミや全学ワークショップを開催するなど、多くの学生・教職員と共に新たなキャンパスの姿を模索してきました。今回のプロジェクトの大きな柱が「道」。南北の歴史地区の中で五高記念館から工

自ら切り拓いて創造する“道”は“知”である。

学部百周年記念館までの「時空をつなぐ道」を造ろうというものです。五高記念館から赤門までは、オリジナルのサインカーブを再整備するとともに、機能的な新しいサインカーブを付加して回遊性を高め、赤門そばにインフォメーションセンター「赤門プラザ」を設けます。大学の情報を発信したり、学内外の人が集うコミュニティの場として、「ユニバーシティゲート」としての役割を持ちます。そして工学部百周年記念館へと、「時空の道」は続きます。

もう一つのテーマが「交流」です。黒髪北キャンパスでは新旧二つのサインカーブにより多彩な広場が生まれます。黒髪南キャンパスでは二つのゆるやかなゾーニングの下、「整った並木道」「身近な緑」「豊かな木立」というテーマで整備を進めていきます。「キャンパスを拓いていくには地域とのつながりも非常に大切です。」

田中 整備が完了すると、県道から五高記念館が見えるようになり、学外の皆さんにも身近に感じてもらえるようになりますね。また南北のキャンパスが一体化したイメージになり、相互の交流も生まれます。点在している文化遺産を活用し、線や面のようにつなぐことで、さらに拓かれた大学へと進化させる。文化遺産はもつとアクティブに活用できるのではないかと考えています。

文化遺産を活かすのは「人」

今回のインタビューを通して、熊大の文化遺産を未来に活かすために、有益なお話をたくさん伺うことができました。改めて感じたのは、キャンパスは研究と教育の場だということ。そして、熊大の長い歴史が培ってきた知や技、育んできた文化や人材は、過去の遺物ではなく未来とつながる「資産」だということです。また、「熊本大学が熊本にあつてよかた」と、大学の文化遺産を社会に還元すること、地域の課題を解決するためにも文化遺産を活かさなければならぬ、ということ。この熊本大学の文化遺産を豊かに活かすのは人次第。そして、熊大文化の交歓を支えてきた道、黒髪キャンパスを南北に貫く官道がサインカーブとして名残をとどめる「道こそ、熊大文化遺産の象徴といえるのではないのでしょうか。」



田中 尚人 Naoto TANAKA
熊本大学政策創造研究教育センター准教授
京都大学大学院工学研究科博士課程中退。同工学研究科助手、岐阜大学工学部講師を経て、2006年熊本大学大学院自然科学研究科准教授、2010年より現職。専門分野「都市地域計画・土壌史・景観論」

研究室探訪

Laboratory Exploration

中島研究室

薬学部

分子薬化学分野

貴金属、レアアースを使わない“有機触媒”

副作用が少ない医薬品原料を、安く効率よく合成する一。そのために必要な“新しい触媒”を探して、中島研究室では実験の日々を過ごしています。

中島教授の専門は有機化学。研究テーマは「新たな有機分子触媒の開発」です。医薬品合成では、求める薬効を示す物質と同時に、副作用を示すかもしれない物質も同時に生成することがあります。そのため、目的の物質のみを選択的に合成する手法が必要となります。

その方法の一つが触媒(*)を使って反応を制御すること。従来の触媒は、貴金属やレアアースを含むものが大半でした。高価な貴金属や供給が不安定なレアアースを含まない新しい触媒ができれば、安価で副作用の少ない医薬品合成に大きく貢献します。

実験技術を磨く“修業”

台の上にはビーカー、フラスコ、試験管など、理科室でおなじみの器具がズラリと並びます。「有機化学の研究とは実験の繰り返し。その大半は手作業です。だから有機化学者にとって一番大事なのは実験の確かな技術力。一人前になるには最低でも3年の修業が必要です」と中島教授。

研究室のメンバーは、求める物質を自分で作れる“有機合成化学のプロフェッショナル”を目指して、毎日実験を繰り返しながら技術を磨きます。

合成の果てにある、まだ見ぬ“触媒”を求める

新しい触媒の候補になる物質の一つ合成するには、半年かかることもしばしば。中島教授は「触媒候補の物質を100作っても、触媒として狙い通り機能するのはそのうち10もありません。そうして絞り込んだ化合物をベースに新たな触媒を設計し、さらに優れた触媒となる物質を探していくのです」と語ります。

中島教授の目指す新しい触媒は、安価で効率的なだけでなく、環境にも優しいもの。開発には大変な作業が続きますが、その成功は創薬の世界に大きなインパクトを与えるのです。

医薬品の合成に役立つ“触媒”を作り出すために
日夜、実験を繰り返す中島研究室。
有機合成化学のプロフェッショナルを育てる
現場に伺いました。



↑ 水と反応すると爆発する還元剤を慎重に操作する修士課程2年・丸丸佑介さん。湿気のある空気に触れないようアルゴンガスでフラスコを満たし、万が一に備えてゴーグルを着用する



← 分液漏斗(ろうと)を使い液体を2層に分け、必要な物質が溶け込んでいる層だけを抽出する



↓ 分子の構造は同じだが、形は鏡に映したように左右対称になっている物質の模型。この形の違いが医薬品としての薬効や副作用の差を生じさせる



大学院生命科学研究部・薬学部 中島誠教授
東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了。東京大学助手、コロムビア大学博士研究員、北海道大学助教授を経て、2004年より現職。専門分野「有機化学」

* 触媒…それ自体は反応前後で変化しないが、物質同士の化学反応を促進する物質。





画期的な創薬につながる新しい“触媒”を求めて 有機化学の技を磨く

中島研究室には、中島誠教授(前から2列目中央)はじめ3名の教職員と学部3年生以上の20名が所属



中島研究室とは？

薬学部の中でも、創薬の基礎となる有機化学に関する教育・研究に携わっている。主な研究テーマは、新しい有機分子触媒反応の開発、フェノキシドを触媒とした高選択的有機合成反応の開発など。

「本当は性感染症の方が身近な問題なんだよ。
10代で性感染症に感染する若者は、
10代で中絶する若者の4倍もいるんだから」(第1週・第4話より)

「叩く蹴る以外にも
相手がおびえたりストレスに感じるようなことを
ついやってしまうのは、デートDVかもしれないよ」(第4週・第4話より)

「夏祭りの時のだけで、妊娠、してるみたいなの」(第8週・第2話より)

特集Ⅱ

ラジオドラマ

「17歳の保健室」

大学生から高校生へ
真剣に伝えたいメッセージ

「青少年の性問題」をテーマに、株式会社エフエム熊本で放送されたラジオドラマ

「17歳の保健室」が大きな話題となっています。

“エンターテインメント・エデュケーション”という新しい手法を用いて、

「性の健康問題」に取り組む河村洋子准教授の研究の一環です。

ラジオドラマ制作には熊本大学の学生が参加。

そこには今の高校生に真剣に伝えたい、熱いメッセージが込められています。

さらに、世界エイズデーに向けたスピノフ作品の制作も決定/

若者の性感染症予防に取り組む前田ひとみ教授と連携し、

教育場面へ応用するなど、さまざまな可能性が広がっています。

健人「臆子先生は？」

朝美「今いないよ」

健人「ラッキー。んじゃ俺はベッドの上から暖かく

見守らせてもらっよ、おやすみ」

唯「あっ、こら健人逃げるな！」

(携帯着信音)

朝美「あ、電話だ。ちょっとごめんね」

(ビッ)

朝美「もしもし」

朝美「今学校だから、ちょっとだけならいいよ」

朝美「あきららの家、直接行く。学校終わってたらすぐ行く

くから。あ、あと今日親の帰り早いから、すぐ帰るけ

ど、いい？」

朝美「うん、じゃまたあとで」

唯「え、今の誰？あきららって、知らないわよ」

健人「もしかして彼女とが？」

唯「えー！朝美彼女いたの？びっくり！なん

だよ報告してよ」

朝美「違うよ。そんなんじゃない」

唯「ほんとに？でも今会って約束してたじゃん」

朝美「そんなんじゃないって...」

唯「じゃあ何よ。あきららって、友達？」

朝美「そうなのでも、ないかな」

健人「なんだそれ」

唯「もう、もったいぶちゃって！友達でも彼女でも

ないって、まさかセフレとが言い出すんじゃないぞ

しょうね？」

健人「おい、唯。セフレって、セックスフレンドのご

とだろ？いくらなんでもそれは失礼だろ。朝美もな

んかいえよ」

(ちょっと固まって)

健人「え、朝美...？」

朝美「そういらこと、かな」

健人「唯「えっ!」

唯「朝美、そんなことしちゃ、ダメじゃない...。相手

は？マツキの人？」

朝美「あと一人...今はその二人だけ」

健人「今は、って、前は他にもいたのか」

朝美「うん、そう」

健人「はあくまじかよ。俺、ちょっと正直ひいちゃっ

たよ。朝美がな」

唯「信じられない。朝美...自分が何してるか、わかっ

たよ。朝美がな」

唯「信じられない。朝美...自分が何してるか、わかっ

たよ。朝美がな」

唯「信じられない。朝美...自分が何してるか、わかっ



ラジオドラマ
「17歳の保健室」

再放送決定!

「高校生の性」をテーマにしたオムニバスドラマ。2012年10月30日～11月1日午前1時～2時、エフエム熊本にて再放送。

あらすじ

第1週「Take me out to the KOSHIEN」

主人公の佐藤健人は鶴亀高校2年生の保健委員長。クラスメートの草野大地が、最近、田中さくらと付き合い始めた。初めての交際にドキドキする大地。そこに登場したのは野球部の先輩・竹山。竹山は大地に「誤った避妊法の情報」を教える。困惑する大地は、保健室の養護教諭・保羅子先生にアドバイスを求めるのだった。



その他の週のエピソードでは、「出会い系サイト」「DV」「性に関する対話」「性感染症」「セックスフレンド」「望まない妊娠」などがテーマとして取り上げられている。

Staff

●原作・ラジオドラマシナリオ/河村洋子(熊本大学政策創造研究教育センター)、「ライターズチーム熊本」(上野由加里、植田優美、宇田倫隆、大久保史菜、清田悠貴、国友幸一、古上恵美里、重森康衣、空田かおり、竹迫真貴、永田晃平、村上史織、本村維隆) ●プロフェッショナルアドバイザー/前田ひとみ(熊本大学大学院生命科学部)、池田景子(池田クリニック) ●キャスト/市原翔也、空田かおり、神谷尚志、西牟田里奈、大迫旭洋、永田晃平、藤川大輔、三次幸介、林田京子、中原中、岩崎優花、國友幸一、村上史織、松本飛鳥、古上恵美里、清水鏡乃、玉垣哲朗、植田優美、宇田倫隆 ●制作プロデューサー/伊井純子 ●制作・著作/株式会社エフエム熊本

ラジオドラマが運ぶ
今の高校生に伝えたい思い

大学生から高校生へ本気で伝えたいこと。それは、「若い人たちに、性の問題を真面目にポジティブに考えてほしい」。ラジオドラマ「17歳の保健室」には、そんな大学生の思いが込められています。

「17歳の保健室」は、2012年6月4日から7月27日まで、エフエム熊本で放送されました。「性感染症」や「出会い系サイト」など、高校生がさまざまな「性の問題」に直面する姿を全8週にわたって描いたオムニバスドラマです。熊本大学と熊本県立大学の学生が中心となり、「高校生の性の問題」をテーマとし

て、ドラマを通して伝えたいコアメッセージを考え、シナリオを制作。声優にも挑戦しています。

このラジオドラマには、性の健康に関する情報がふんだんに盛り込まれ、楽しみながら性の健康について正しい知識が学べる仕掛けになっています。教育と娯楽を融合させた「エンターテイメント・エデュケーション」という手法が日本で初めて取り入れられた作品なのです。「エンターテイメント・エデュケーション」には、本当に届けたい情報や知識を、本当に届けたい人へ伝える力があります」と、ラジオドラマを企画した熊本大学政策創造研究教育センターの河村洋子准教授は語ります。



「17歳の保健室」制作に携わった熊大生らの「ライターズチーム熊本」。ラジオドラマには「性の問題をポジティブに考えてほしい」との思いを込めた

人の心を動かす
エンターテイメント・エデュケーション

河村准教授の専門はヘルスコミュニケーション。公衆衛生学の一分野で、人々に健康な行動を促すためには、どのような内容の情報をどのように伝達するのが効果的かを研究し、実践に生かしています。

エンターテイメント・エデュケーションは、教育と娯楽を融合して正しい知識や行動を伝える新しい手法です。ドラマや演劇などに教育的メッセージを盛り込み、視聴者はドラマの登場人物の言葉や行動を通して知識を身に付け、自分に引き寄

せて考え、問題に対する意識や行動を変化させます。1980年代から中南米やアフリカなどで「女性の地位向上」「性感染症予防」などの成果を挙げ、アメリカでは人気テレビドラマにも取り入れられています。日本では実例がありません。

「人間は興味・関心がなければどれだけ強く情報発信しても受け取りません。でも映画などで心が動かされた時、メッセージは心の奥まで届きます。この応用がエンターテイメント・エデュケーション。心を動かされ、感銘を受けた情報は実際の行動を変える力になります。アメリカ留学に出合ったこの手法は、実に人間の本性を突いているので、日本でも実践していきたいと考えていました」と河村准教授は語ります。



工学部「まちなか工房」にて行われた台本読み合わせの様子。声優はオーディションで選ばれており、県内の高校生、大学生らが参加した

同じ世代の問題だから。本気になって考える

青少年の問題
本当の情報・知識を
本当に届けたい人へ

「17歳の保健室」のテーマである「高



エフエム熊本スタジオにて、(左から)古上恵美里さん、前田教授、河村准教授、玉垣哲朗さん、市原翔也さん。社会人のほか、現役の高校生、大学生も声優として参加した

校生の性の問題」に行き着いたのは、河村准教授と大学院生命科学研究所・前田ひとみ教授との出会いからでした。

前田教授は基礎看護学、特にHIVや性感染症など感染症看護分野を専門としており、青少年の性感染症予防を中心に取り組んでいます。「熊本県において青少年の性の健康問題は緊急課題の一つです。2010年度の熊本県の人工妊娠中絶(15〜49歳)の経験者は全国で最も高く、20歳未満でも、全国平均が1,000人中6・9人に対して、9・2人と高い割合です。また、若い世代に性感染症が広まっており、高校生の10人に一人がクラミジアに感染しているという衝撃的な推計もあります」と前田教授。青少年の性感染症予防のため、高校生や大学生を対象とした、身の回りで起きている問題を仲間と一緒に考えることで教育効果を挙げる「ピアエデュケーション」という手法を用いた研修も開いていました。しかし、「研修に参加する人は元々、意識も高いし知識もあります。でも本当は、研修に関心がない人にこそ、性感染症に関する情報は必要というジレンマがありました」。そんな中で、前田教授はエン

ターテイメント・エデュケーションに出合い、大きな希望を感じました。

一方で、アメリカ留学時代に学んだこの手法をどう日本の社会に生かしていくかを模索していた河村准教授。二人が協力して性感染症の問題に取り組む中で、高校生の性の問題が、この手法を実践するテーマとして浮かび上がってきたのです。

世代が近い学生だから メッセージに熱がこもる

高校生に共感を得るメッセージには世代が近い「学生目線」が必要です。河村准教授は熊本大学放送部と医学部看護学科専攻の学生、熊本県立大学のインターネットラジオ同好会の学生に声を掛け、ライターズチームを結成しました。

河村准教授からテーマを聞いた時、放送部部长の文学部3年・植田優美さんは「性の問題は気恥ずかしいし、普段の会話でも口にしなないとまどいもありました。でも自分の経験や、友人、先輩から話を聞いて情報を集めると、とても身近で重要な問題だと気づきました。毎週のワークショップまでに各自が調査してく

Message

フリープロデューサー
伊井純子さん

これまでさまざまなドラマやドキュメンタリー番組を制作し、ラジオを通して発信してきました。河村准教授からエンターテイメント・エデュケーションのメッセージを訴求する力の大きさを伺い、日本初のユニークな方法にぜひチャレンジしたいと思いました。制作現場では、学生の情熱に心を打たれ、完成度の高い作品にせねば!と責任感を感じ意欲が高まりました。

世界エイズデーに向けたスピンオフ作品では、河村准教授や学生たち「熱いスタッフ」と仕事ができる喜びを感じています。

略歴:熊本大学教育学部養護教諭養成課程・昭和59年度卒。ラジオドラマやドキュメンタリー制作に携わる。文化庁芸術作品賞ほか受賞歴多数。



るのですが、会議では意見でホワイトボードがいっぱいになるほど。時には3時間も議論するくらい、みんな真剣に性の問題に向き合えるようになりました。

会議にオブザーバーとして参加した伊井純子・番組制作プロデューサーは、「同じ世代の若者が若者に伝える。問題を自分自身のこと、ごく親しい友人のこととして共感できる。だからそこに伝えたいメッセージは深くなり、真剣だし、情熱が込められる」と感じたと言います。

ライターズチームは、「ラジオドラマ



Message

「不思議少年」代表
大迫旭洋さん

私は劇団を主宰しており、声優オーディションに参加したのが、「17歳の保健室」との出会いでした。性教育は、大人目線では若者の実態とかけ離れたものになり、距離感が難しい。年齢の近い学生からの発信だから、心に届く作品になったのでしょうか。

12月1日のスピノフ作品ではシナリオを担当します。娯楽と教育のバランスを取るのには難しいですが、その分やりがいもあります。友達や家族で性教育の重要性を見つめ直すきっかけにしたいですね。将来は「17歳の保健室」の舞台版も演じてみたいと思っています。

略歴：熊本大学文学部総合人間学科・平成22年度卒。熊本大学在学中に劇団「不思議少年」を旗揚げして以来、九州各県を中心に精力的に公演を行っている。

を通じて青少年のセックスについて多様な価値観がある中でも、自分自身のことについて深く考えて、自分なりの考えを見つけてほしい」というメッセージの方向性を決めました。情報リテラシーや関係性の構築などに関する六つのコアメッセージを確定し、そのメッセージを伝える具体的な八つのストーリーを考え、シナリオを書き上げました。

登場人物を演じる声優も同世代の人に演じてほしいと声優を公募したところ、

一過性でなく、大きなムーブメントにしたい

感想のメールが届き、「性の問題は関わりにくいテーマだけど、物語になると分かりやすい。登場人物を自分に置き換えて、自分ならどう行動するか考えたりしました」といった意見も寄せられました。新聞など多くのマスコミにも取り上げられ、10月には再放送も決まっています。

さらに広がるエンターテイメント・エデュケーションの可能性

「17歳の保健室」で用いられたエン

オーディションには高校生や大学生、大学OBなど40人以上が集まりました。「メンバーの誰もがドラマ制作にいくぐい引き込まれていきました」と植田さん。こうして8週分全40話の物語「17歳の保健室」が完成しました。

反響は多方面から寄せられました。放送に合わせて開設したエフエム熊本の「17歳の保健室」のウェブサイトで、これまでずっとアクセス数1位だった番組を抜いてトップになりました。朝や昼のレギュラー番組にも、リスナーから番組



Profile

熊本大学政策創造研究教育センター 河村洋子准教授 (写真左)
アラバマ州立大学バーミングハム校公衆衛生大学院博士課程修了。健康と環境の関係に関心があり、アメリカでエンターテイメント・エデュケーションの実践研究に携わる。

熊本大学大学院生命科学研究部 前田ひとみ教授 (写真右)
名古屋市立大学大学院看護学研究科博士課程修了。性感染症の予防に取り組んでおり、ピアカウンセラー養成をはじめ、高校生や大学生の健康教育に携わっている。



3泊4日の養成講座では九州5県から41名の大学生が参加し、スピノフ作品のコアメッセージのアイデアを出し合った



ターテイメント・エデュケーションはさまざまな可能性を秘めています。「将来的にはこの手法を演劇や音楽などにも応用できる汎用性を持ったパッケージを作り、さまざまな教育現場での応用を目指したい」と河村准教授は話します。

12月1日「世界エイズデー」に向けた「17歳の保健室」のスピノフ作品の制作も決定。九州5県合同で開催された「ピアカウンセラー養成講座」に参加した大学生たちがコアメッセージのアイデアを出し合いました。性感染症の知識が

あり、問題を捉える意識が高く、コアメッセージはより深くなります。世界エイズデーには、県下の保健所と連動した市民啓発イベントも企画中です。

今後もスピノフ作品を継続的に制作する予定と話す河村准教授。「一過性は教育効果は拳がりません。一つのムーブメントにつながることで、教育効果が継続的に生まれるのです」。ラジオドラマ「17歳の保健室」から始まったムーブメントは、教育を、社会を変える可能性を秘めています。



グアテマラ

交流

憧れの建築家の意匠に触れ、 フィンランド建築の機能性に学ぶ

大学院自然科学研究科博士前期課程建築学専攻2年 末次洋輔さん

2011年1月から2012年2月まで、
フィンランドのアアルト大学建築学部で学んだ末次洋輔さん。
フィンランドで建築を学んだことで、
自らの建築に対する考え方が深まったと語ります。



建築家アルヴァ・アアルト設計の「ヴィープリ図書館」のホールで記念撮影（写真左）。波打つような天井のフォルムは、音響的な実験を繰り返してできた機能的な形だという

森が豊かなフィンランドには、木造をはじめとする優れた建築物がたくさんあり、以前から興味がありました。また、研究室の田中智之先生から「機能的で、流行にとらわれないフィンランド建築から学ぶことは多い」とアドバイスを受けたこともあり、フィンランドへの留学を決定しました。アアルト大学という大学名は、フィンランドの建築家、アルヴァ・アアルトの名に由来して付けられています。私は、その偉大な建築家、アアルトが設計した学生寮に住んでいました。とはいっても、けっして豪華な建物ではなく、コンクリート造りのシンプルなもの。扉の取っ手など、細かいところに目を凝らすと、機能性と、美しさが見事に調和した素晴らしいデザイン

なんです。日常の生活の中で、アアルトらしさを感じるのができ、得難い体験でした。大学では、フィンランド人だけでなく、スロバキアやメキシコなどから来た留学生とともに学びました。ゼミでは、構造、設備、デザインなどあらゆる側面、具体的なアプローチが求められました。例えば、私が建築物の模型を制作した際も、日本で作る時の要領で、着色せずに提出したところ「君の建築は、白じゃないだろう？」と先生に指摘されました。つまり、素材は何を使うのか、床に何色のマットを敷くのか、なぜその素材を使うのかなど、細かく指定する必要があるのです。また、現地の設計事務所ですら実際に仕事をさせていただき、建築家の仕事のプロセスを学び、経験を積むこともできました。



建築を学ぶ学生のための施設は、24時間使えるため、よく夜中まで友だちと設計の課題に取り組んだ（写真右）

- 6 / 4 ボルドー国立電子情報高等学院(フランス) 来学
本学の大学間交流協定校である同学院から国際部長の Paul-Y. Goues 教授が来学し、自然科学研究科を表彰訪問しました。同教授によるボルドー国立電子情報高等学院の紹介セミナー及びフランス文化の紹介等も行われました。
- 5 2012シリーズ留学説明会(第2回)を開催
2012シリーズ留学説明会(第3回)を開催
- 7 / 3 2012シリーズ留学説明会(第4回)を開催
「くまもとを知ろう！」ボランティアガイド養成講座(修了式)を挙行
- 14 熊本留學生交流推進会議の主催により5月26日から開催された本講座を合計16名の学生が受講しました。
- 13 2012シリーズ留学説明会(第4回)を開催
- 20 モンタナ州立大学 (アメリカ) 来学
Waded Cruzado 学長以下6名の訪問団が本学各口学長を表彰訪問しました。
- 22 日本留學生(台北)に参加
- 30 熊本大学サマープログラム2012を実施 (8月11日まで)
海外交流協定校の学部学生に、日本に対する興味や理解を深める機会を提供することを目的としたサマープログラムを実施しました。



International exchange Report

国際交流レポート
平成24年6月～8月



世界から熊本大学へ

最先端のエイズ研究施設で学び、 母国に貢献したい!

大学院医学教育部博士課程医学専攻2年
ラミレス・バルデス・クリステル・パオラさん

2010年に来熊し、HIV／エイズ抗体の研究を続ける
グアテマラ出身の留学生ラミレス・バルデス・クリステル・パオラさん。
将来は、グアテマラで、エイズの感染予防や患者の心のケアなどに尽力したいと語ります。

高校卒業後、グアテマラのサンカルロス大学で微生物学や生化学を学びました。病院で実習をしている時、エイズ患者の若い母親と出会ったのが、HIV／エイズ研究を志したきっかけです。彼女は、夫をエイズで亡くし、二人の健康な子どもを女手一つで育てていました。彼女は自分がエイズで亡くなることよりも、残された子どもたちが、社会的に阻害されたり、非難されることを、とても恐れていました。エイズという病気は、その予防や治療法を確立することも大切ですが、差別など、社会医学の側面でもさまざまな課題を抱えています。熊本大学は、HIVやエイズに関して独立した研究機関を持ち、様々な角度から研究を行っている



HIV感染者の血液中から、HIV抗体を産生する細胞を抽出し、状態のよい抗体を育てる研究をするラミレスさん。「HIVワクチン実用化に向けて、研究を重ねたい」と目を輝かせる



フィンランド

熊本

国

際

ことを知り、文部科学省の奨学生制度を利用して留学しました。

私が学ぶ「エイズ制圧をめざした研究者養成プログラム」は、文部科学省のグローバルCOEプログラム(※)に指定されており、恵まれた環境で最先端の研究に携わることが出来ます。顕微鏡で細胞内のエイズ抗体をチエックしたり、エイズに関する最新の論文について仲間とディスカッションしたり、臨床医としてHIV／エイズ患者と向き合う教授から直接話を聞くなど、毎日が学びの連続です。

先生や研究室の仲間は、目的意識が高く、とてもフレンドリー。特に、技術補佐員の河波陽子さんは、研究のことだけでなく、アパート探しやお裁縫まで、なんでも助けてくれる。熊本のお母さんの存在。

今後は、熊本大学での学びを生かし、グアテマラで、エイズ予防や治療さらに、苦しんでいる患者さんの心のケアができればと思っています。



ラミレスさんが「熊本のお母さん」と慕う河波陽子さん。「彼女は、日本人以上に礼儀正しく、ハートが熱いんです!」と河波さん

※グローバルCOEプログラム：国際的に卓越した教育研究拠点をより重点的に支援する文部科学省の取り組みの一つ。本学からは「エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点」(細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット)「衝撃エネルギー工学グローバル先導拠点」が採択されている。

8 / 7

した。中国、韓国、台湾、タイ、ドイツの交流協定校から合計30名の学生が参加しました。

平成24年度前期日本語研修コース修了式及び短期留学コース・日本語日本文化研修プログラム開講式を挙行



19

薬学部附属薬用資源エフロネリアセンター、ボカラ大学(ネパール)薬学部を表敬訪問
ネパールから本学に留学中の博士課程3年のハリデー・フコタ氏等が「日本での研究について」を講義を行い、ボカラ大学の学生30名が参加しました。



26

医学部附属病院リハビリテーション部等国際協力機構(OVVO)の平成24年度草の根技術協力事業に参加(31日まで)
医学部附属病院リハビリテーション部および大学院生命科学部環境保健医学部分野の3名が、中国桂林市リハビリ医療センター人材育成支援プロジェクトに参加し、桂林および兩寧のリハビリセンターにおいてリハビリテーション技術指導を行いました。



31

大学院自然科学研究科、ブレイズパスカル大学(フランス)と部局間交流協定を締結
自然科学研究科副研究科長・大谷順教授が同大学を訪問し、部局間交流協定調印式を行いました。なお、前日の30日には、同研究科の部局間交流協定校であるサンテイエヌ国立高等師範学校(フランス)を訪れ、交流を深めました。



理 市の化学専門職として 環境汚染のメカニズムを調査



柳井 真子

Mako YANAI

熊本市役所
環境総合センター 勤務

理学部理学科物理・化学プログラム・平成19年度卒／大学院自然科学研究科博士前期課程理学専攻・平成21年度修了

昭和60年大分県竹田市出身。大分県立竹田高等学校から熊本大学へ。大学院卒業後、熊本の豊富な地下水や豊かな緑に魅力を感じ、熊本市役所に入庁。環境総合センターに配属された。

熊大のココがイイ!

緑豊かなキャンパスで
勉学や課外活動に
励めること

大好きな化学をもっと学びたい
専門以外のサイエンスにも興味

高校時代、化学の図説を見るのが大好きで、将来の夢は決まっていなかったけど、漠然と化学の勉強がしたいと思っていました。恩師から「目標に向かいこつこつ努力するタイプ」と言われたことや、就職の幅広さ、高校で専攻の物理や地学など幅広く科学を学べる点に魅力を感じ、熊大理学部を志望しました。

チャレンジ精神で参加した
阿蘇耐久遠歩が大きな自信に

勉強、サークル、アルバイト、さまざまなことに挑戦。最大の挑戦は、熊大恒例行事の遠歩です。阿蘇から大学までの57kmを足をひきずりながらも完歩したことは、今でも自信となっています。修士課程でも、なかなか結果が出ずに悩み足が止まることもありましたが、先生のご指導の下、諦めずに修了できました。

大学で得た幅広い知識を生かして
熊本の環境を守りたい

現在、化学職として地下水や河川、大気などの環境汚染物質の調査、研究を行っています。分析手法や機械操作がたくさんあり大変ですが、理学部で学んだ幅広い知識に助けられています。環境汚染は自然豊かな熊本も例外ではなく、現状把握や汚染メカニズム解明が必要です。これからも自己研さんに努め、熊本の自然を守っていきたいと思います。

卒業生 ジャーナル

Graduates' Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る
「卒業生ジャーナル」。
熊本県内はもとより、国内外で活躍する
先輩たちのこれまでの歩みや苦労、
そして喜び、楽しみなどを通して
精励するその姿をご紹介します。

文 新聞広告を通して より良い地域づくりに貢献したい



岡 直彦

Naohiko OKA

株式会社佐賀新聞社
(佐賀) 勤務

文学部哲学科哲学コース・
平成15年度卒

昭和50年福岡県福岡市出身。福岡県立筑紫丘高校から熊大へ。イベント運営や、営業職に興味があり、父の故郷でもある佐賀県の佐賀新聞社に入社。入社後は、新聞広告の営業に携わる。

熊大のココがイイ!

素朴さ!

たくさんの出会いを夢見ながら
吹奏楽に熱中した高校時代

高校生の頃は勉強そっちのけで、吹奏楽部に全力投球で打ち込んでいました。当時はまだ、将来の夢といった具体的な思いは固まっていませんでしたが、より多くの人と関わることのできる人生を送りたいと、漠然と思っていました。

部活と哲学に徹底的に向き合った
かけがえのない時間

水泳部とバイトに全てを注ぎ込んでしまった前半戦と、哲学に向き合った後半戦。真面目な学生ではありませんでしたが、今振り返ると、部活について、研究テーマについてだけを、四六時中考えても許される貴重な時間だったと思います。また、たくさんの人たちと出会い、必要以上に酒を飲み交わした日々も思い出です。

大学時代のあらゆる経験を財産に
新聞紙面と真剣に向き合う毎日

卒業後、新聞社で広告の営業をしています。福岡支社、東京支社を経て現在は本社勤務。入社9年目になりますが、毎年さまざまな紙面企画を立案して実施しています。佐賀が少しでも良くなるような紙面展開を目標に、仕事と格闘する日々です。大学生活で培ったモノは、余すことなく今の私の業務に生きる貴重な財産となっています。

薬 薬を開発して病気で苦しむ 世界中の患者さんを助けたい



三木 理沙

Risa MIKI

久光製薬株式会社
研究開発本部
臨床開発部(東京) 勤務

薬学部創薬・生命薬科学科・平成21年度卒／大学院薬学教育部博士前期課程創薬・生命薬科学専攻・平成23年度修了

昭和62年鹿児島県鹿児島市出身。私立志学館高等学校から熊大へ。大学で学んだことを生かし、大学院卒業後、薬の開発を志し久光製薬株式会社へ入社。趣味はピアノ、食べ歩き。

熊大のココがイイ!

とにかく、人がいい!
熊大で出会った
人達との仲は
一生ものです!

熊薬セミナーの参加で
薬学部への思いが高まる

もともと薬学部に興味があったのですが、高校生の時に参加した熊薬のセミナーで、先生が「自分が作った薬で、何世代にもわたって世界中の人を救えるかもしれない」とおっしゃっていたのがとても印象に残り、薬作りに携わりたいという思いが強まりました。

多くの人に恵まれて楽しい日々
アメリカの学会にも参加

先生、同級生、先輩、後輩、本当に人に恵まれて毎日が楽しかったです。学部時代は薬学部バレーボール部に所属。研究室では学校中心の生活でしたが、休日は飲み会や旅行に行ったりと、「よく遊び、よく学び」の生活でした。また、アメリカの学会にも2回参加。熊薬での6年間は、何に対しても前向きに、自分から積極的に動く大切さを学びました。

夢がかなって製薬の仕事に
感謝される薬の開発を目指して

この3月に大学院を卒業し、現在製薬メーカーで試験に携わる臨床開発職として仕事をしています。夢だったこの職業に就くことができ、まだ慣れないことばかりですが、充実した毎日を過ごしています。薬の開発は、難しく非常に時間がかかるものですが、今後、患者さんから「この薬があってよかった」と言われる薬を一日でも早く開発したいです。



母と子二人の命を預かる助産師 より良い出産・育児のために



真辺 智子

Tomoko MANABE

熊本大学医学部附属病院
産科勤務 助産師

医学部保健学科看護学専攻・
平成23年度卒

昭和63年鹿児島県鹿児島市出身。県立鶴丸高校から熊本大学へ入学し、助産師・看護師・保健師の免許を取得した後熊本大学医学部附属病院の産科病棟にて助産師として働く。趣味は旅行すること。

熊大のココがイイ!

共に切磋琢磨できる仲間と、いつでも相談できる先生方がいます!

子どもに関わる仕事を選び
助産師の道へ

高校生の頃は薬剤師になりたいと思っていました。しかし受験で失敗して、人と関われる仕事、大好きな子どもと関われる仕事に就こうと思った時、助産師になろうと決めました。お母さんと赤ちゃんとの命を預かる大変な仕事ですが、家族の幸せそうな笑顔を見たりかわいい赤ちゃんを抱っこしていると、今の仕事に就いて本当に良かったと感じます。

仲間と一緒に充実した学生時代
ハードな実習も励まし合い乗り越える

よく遊び、よく学んだ4年間だったと思います。旅行に行ったりサークル活動したり、時には夜通し友達と話をしたりと充実した日々でした。看護・助産の実習はぎつくて何度も逃げ出したいくなりましたが、先生方に支えられ、友人たちと励まし合い乗り越えてきた日々があったからこそ今の自分があると思っています。

産科で出産・育児のケア
先生や友人が心の支えに

現在は産科病棟で妊産褥婦(にんさんじょくふ)さんと関わり、より良い出産・育児ができるようにケアを行っています。出産や授乳は人により異なり、ケアの中で勉強の日々を送っています。共に学んだ友人や指導して下さった先生方とは今でも交流があり、相談したり励まし合ったりと心の支えになっています。



税理士の専門知識を生かして 中小企業の経営課題を解決



中島 嘉郎

Yoshiro NAKASHIMA

税理士法人中川会計
社員税理士(佐賀)

法学部法律学科・平成3年度卒

昭和44年福岡県大川市出身。福岡県立伝習館高校から熊本大へ。卒業後、民間企業に就職し、飲んだくれの日々を送るも、ある日突然、税理士になることを決意し退職。現在は禁酒して早や8年が経過。

熊大のココがイイ!

黒髪北キャンパスは緑も多く、他大学にはない風情がある

憧れのナンバースクールへ
高校時代の愛読書がきっかけ

田舎の高校生だった私は、ナンバースクールである熊本大学に入学することそのものが憧れでした。高校時代に読みふけた北杜夫の、「どくとるマンボウ青春記」が大きく影響したようです。当然、入学後や卒業後のことなど、何も考えていませんでした。

学園祭実行委員や講演会の企画
課外活動に燃えた青春

大学には、ほぼ年中無休で通いましたが、教室には足が向かず、サークルの部室と学生会館に入り浸りでした。黒髪祭の実行委員時代は、大学の先生方と丁々発止の熱い日々(あの頃は失礼しました)。他には水保病裁判の傍聴に行ったり、教育評論家の講演会を企画したり。課外活動に熱中しすぎて、結局留年する羽目になったのは、まあ自業自得です。

「あなたのおかげ」の言葉が誇り
中小企業を発展させる税理士

10年前に税理士になりました。税理士の仕事は税金計算だけではありません。クライアントを毎月訪問し、さまざまな経営課題を解決すべく経営者と一緒になって考えます。税務・会計という専門知識を生かして、中小事業者の健全な成長発展に貢献するのが現代の税理士の使命。「あなたのおかげで助かった」の一言が、仕事のだいご味であり誇りです。



大手建設会社で 首都圏の交通、経済を支える



坂西 由弘

Yoshihiro SAKANISHI

鹿島建設株式会社
東京土木支店
外環国分JV工事事務所
(千葉) 勤務

工学部環境システム工学科土木環境系・平成17年度卒/大学院自然科学研究科博士前期課程社会環境工学専攻・平成19年度修了

昭和58年熊本県玉名市天水町出身。熊本県立玉名高校から熊本大へ。土木業界の中でも実際のものづくりができるゼネコンの「鹿島建設」へ入社。設計部門を経て現在、高速道路の工事現場に勤務。

熊大のココがイイ!

学生同士の縦横のつながりが強いところ

自動車の開発という夢から
土木構造物を造るという夢へ

高校生の頃は自動車が好きで、将来は自動車を開発して、自分が作った自動車が道路を走るのを見るのが夢でした。しかし、縁あって熊大の環境システム工学科に入学。仲間や先生方と出会い、土木工学を学ぶにつれてその魅力を知り、建設業界というものづくりの場で働くことが夢になりました。

イベント運営、ボランティア、干潟研究
多くの友と積極的に活動

たくさんの友人と尊敬すべき先生方・先輩方、かわいい先輩たちに恵まれ、とても充実した学生生活でした。学生会に入り仲間と共にイベント運営を行ったこと、「熊助組」という災害ボランティアを結成して美里町の水害の復旧作業に参加したこと、故郷熊本の有明海の干潟を対象とした研究を行ったことが特に印象に残っています。

300人以上が働く
高速道建設の現場で奮闘

鹿島建設に入社し、東京外環自動車道国分工事という高速道路の建設現場で働いています。この道路は首都圏の交通問題や将来の経済を支える重要な環状道路です。現場では毎日300人以上が働き、重機が何台も動いて工事が進んでいく様子は圧巻です。高速道路が完成した後は、家族を車に乗せてぜひ走ってみたいです。



悩みを抱える学生を笑顔に キャンパスソーシャルワーカー



今崎 幸子

Sachiko IMASAKI

熊本大学学生支援部学務
ユニット学生相談室 勤務
キャンパスソーシャル
ワーカー

教育学部生涯スポーツ福祉課程・
平成15年度卒

昭和56年熊本県熊本市出身。熊本県立大津高校から熊本大へ。鶴屋百貨店退社後、西合志中校区の教育相談員を経験し、やりがいと重要性を知る。母校に恩返しがしたいと思い、平成24年4月より現職。

熊大のココがイイ!

自分がやりたい研究を、
全力で応援してくれる
先生や先輩がいます

教員を目指す中で福祉にも興味
人を元気にする仕事がしたい

小学生の頃から教員を夢見ていましたが、高校2年の頃、熊大の教育学部に生涯スポーツ福祉課程があることを知り、福祉分野の本をたくさん読むようになりました。その頃から、教員だけでなく、福祉に関わる仕事にも興味を持ちました。相手を笑顔にして、元気を与えられるような仕事がしたいと思いました。

部活にも学業にも一生懸命
先生や仲間にも感謝

大学ではバスケットボール部の活動に熱中しながら、学業との両立を心懸けていました。苦楽を仲間と共有し、おいしいお酒を飲みながら語り合った時間は今でも宝物です。困った時に一緒に考えてくれる先生や仲間、多くの人に支えられて自分が生きていることを実感し、「おかげさま」という気持ちを常に持つようになりました。

百貨店から相談員に
学生が笑顔が一番うれしい

卒業後は鶴屋百貨店に入社し、バスケット部に所属。その後は不登校の小中学生の相談員に。現在は熊本大学学生相談室のキャンパスソーシャルワーカーとして、学生のさまざまな相談を受けています。悩みを抱える学生と関わる中で、一緒に笑顔になれる瞬間に、相談員として最高にやりがいを感じています。

REPORT 山崎 正董先生大礼服贈呈式を挙行了しました

7月18日(水)、本学本荘北キャンパス内 山崎記念館1階展示室にて「山崎正董先生大礼服贈呈式」を行いました。

本大礼服は、昭和3年(1928)官立熊本医科大学初代学長・山崎正董先生が、昭和天皇の御大殿に参賀された際に着用されたもので、山崎家の依頼により、製造元の株式会社 泉洋服店にて保管されておりましたが、このたびご厚意により、熊本大学へ寄贈されました。

内外を問わず、山崎先生に縁の深い方々に足をお運びいただき、贈呈式が開催されました。式の中では、山崎先

生の御親戚である中島喜久氏より、大礼服にまつわるエピソードなどが紹介

され、改めて本学医学部の長い歴史と、山崎先生に思いをはせたひとときとなりました。また、竹屋元裕医学部長より、贈呈者である株式会社泉洋服店代表取締役の泉冬星氏に感

謝状および記念品が授与され、和やかな雰囲気の中、式を終了しました。



「山崎正董先生大礼服贈呈式」出席者一同

REPORT 臨床医学教育研究センター完成記念式を挙行了しました



講演する日本医学教育学会理事長の伴信太郎氏

8月11日(土)、本学本荘北キャンパス内、生命科学部附属臨床医学教育研究センターにて同センター

完成記念式を挙行了しました。式典には学生を含め、多数の関係者が出席し、センター建設に伴い、多額の寄附をご恵贈いただいた故奥窪謙先生ご長男・奥窪完(たもつ)氏、一般財団法人化学及血清療法研究所理事長・宮本誠二氏に、谷口学長より感謝状が贈呈されました。式典後には、日本医学教育

学会理事長・伴信太郎氏の講演会「医学・医療教育の基本—医学教育センターの役割を含めて」が行われました。

同センターは、本学大学院生命科学部附属の医療人教育に特化したセンターとして、平成22年10月に発足。「医学教育分野」と「診療実践教育学分野」の2分野を設置し、チュートリアル教育の企画と実践、共用試験の実施と運営、医学教育FD(Faculty Development)ワークショップの企画運営、学部教育のためのeラーニングシステムの構築等を通して、優

れた医療人の育成を目指し、本学卒業生のさらなるレベル向上に大きく貢献することが期待されます。



完成した臨床医学教育研究センター

REPORT オープンキャンパスを開催 大勢の高校生が参加

本荘・九品寺・大江キャンパスで8月8日(水)、黒髪キャンパスで10日(金)、オープンキャンパスを開催。多くの高校生が本学を訪れ、未来の大学生活に触れました。

説明会場となった各学部の教室では、立ち見でいっぱいになるほどの大盛況。各研究室はゼミ体験や実験体験などさまざまな工夫で未来の熊大生にアピールしました。構内スタンプラリーや、学生のボランティアとの交流など、訪れた高校生は大学生活を満喫する一日となりました。



INFO 平成24年度熊本大学ラジオ放送公開講座
「熊大発! 知的冒険の旅」を配信します

エフエム熊本の朝の情報番組「モーニング グローリー」に本学の教員が生出演。毎週月曜、さまざまな分野の「注目の人」がゲストとなりインタビュー形式で送る、「ヒューマン・ラボ」のコーナーにて、本学の最先端の教育・研究や地域とともに取り組んでいる活動の様子などを分かりやすく“生講義”します。

教員の個性豊かなキャラクターが垣間見えたり、一見難しそうな大学の“研究”が実は身近なことに関わっていたりと「聴けば得する」新たな発見を皆さんにお届けします。

放送後はポッドキャストでも番組を

配信します。詳細は、熊本大学政策創造研究教育センターホームページおよびFacebookページ「熊本大学で生涯学習!」をご覧ください。

放送日時／エフエム熊本「FMK Morning Gloryヒューマン・ラボ」のコーナーにて

平成24年11月5日～1月28日
毎週月曜日10:10～(13週連続放送)
【問い合わせ】

熊本大学政策創造研究教育センター
Tel.096-342-2044

E-mail: seisoken@gpo.kumamoto-u.ac.jp

URL: <http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/>



熊本大学のさまざまな分野の教員が登場し、研究・教育活動を紹介します。

INFO 平成24年度「熊本大学政創研公共政策コンペ」を行います

熊本や九州、自分たちの未来について日々考えている学部生、大学院生および自治体職員が政策提言を行うフォーラムです。今年は「みんなで考えよう 熊本、九州の未来」をテーマに、事前公募した学生や自治体職員がコンペ形式で政策提言のプレゼンテーションを行います。

日時／11月4日(日)13:00～
場所／工学部百周年記念館
対象／大学生・大学院生・教職員・行政職員および興味のある一般の方
参加費／無料 ※事前申込不要

【問い合わせ】
熊本大学政策創造研究教育センター
Tel.096-342-2044
Fax.096-342-2042
E-mail: seisoken@gpo.kumamoto-u.ac.jp



INFO 熊本大学・第7回永青文庫セミナー「竹原家故実と細川藩」

永青文庫に残る多数の故実芸能関係の写本類から、細川家の故実相伝に大きな役割を果たした竹原家歴代の仕事を考察します。

日時／11月3日(土)14:00～15:30
場所／文・法学部棟1階A2講義室
対象／一般の方
参加費／無料 ※事前申込不要

【問い合わせ】
熊本大学附属図書館
Tel.096-342-2212(成田)
URL: <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news/865>

INFO 夢科学探検2012

理学部探検、工学部探検、もの・くりChallenge
さまざまな実験を行います。テーマの選別や実験に参加できる時間の制限はありません。多くの実験に参加して、科学の面白さ、不思議さを、私たちと一緒に楽しんでください。

日時／11月3日(土)10:00～16:00
場所／黒髪南キャンパス(理学部・工学部・自然科学研究科)
対象／小学生から一般の方
参加費／無料 ※事前申込不要

【問い合わせ】
夢科学探検2012事務局
E-mail: yume@tech.eng.kumamoto-u.ac.jp
URL: http://www.chem.kumamoto-u.ac.jp/act/yume_index.html

INFO 女子中高生理系進路選択支援事業
第2回講演会・懇談会「聞いてみんな、見つけんね! 理系の女性ロールモデル」を開催します

九州の女子中高生に、理系を身近な学門として興味を持ってもらい、研究者志望の女子中高生を増やすことを目的とした事業「サイエンス・プロジェクト for 九州ガールズ! 2012」の企画です。

7月21日(土)に実施した第1回に続く今回の講演会では、理学部と工学部の女子大学生・大学院生による講演会および懇談会を開催。保護者や中学・高校の先生向けの情報提供も行います。

日 時/10月13日(土)
14:00~16:00
(受付13:30より)

場 所/医学部保健学科(九品寺キャンパス)
対 象/女子中学生・女子高校生
(保護者の方や先生も参加できます)
参加費/無料
事前申込/Faxまたは電話にてお申し込みください。座席に余裕があれば当日参加も受け付けます。

【問い合わせ】
生命科学部保健学系事務室
総務担当
Tel.096-373-5452
(平日9:00~17:00)
Fax.096-373-5519



INFO 第7回ホームカミングデーを開催します

本学の卒業生と学生、教職員との相互交流を図ることを目的に「第7回ホームカミングデー」を開催。大学の近況報告や学生によるアトラクションをはじめとする多彩な行事と交流の場を用意しています。

日 時/11月3日(土)
13:30~17:00
場 所/工学部百周年記念館
対 象/本学卒業生

【問い合わせ】
運営基盤管理部総務ユニット
Tel.096-342-3116

Fax.096-342-3110
E-mail: kuma-hcd@jimu.kumamoto-u.ac.jp



INFO 『本九祭』企画「体験! 発見! だけん、発生研!」を開催します

実際の研究室を見学し、生命科学の研究現場を体感できます。生きた実験動物や幹細胞(ES細胞・iPS細胞)も展示します。

日 時/11月3日(土)~4日(日)
11:00~17:00
場 所/熊本大学発生医学研究所
参加費/不要 ※事前申込不要

【問い合わせ】
熊本大学発生医学研究所
Tel.096-373-5786
E-mail: imeg@kumamoto-u.ac.jp
URL: http://www.imeg.kumamoto-u.ac.jp/



発生制御部門、幹細胞部門、器官構築部門に関わるさまざまな研究現場を訪れ、分かりやすく解説を聞くことができます



熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.19(平成24年6月1日～平成24年8月31日)

卒業生の皆さま、在学生の保護者の皆さま、法人・団体等の皆さま、本学の退職者及び教職員の皆さまからご寄附をいただき、平成24年8月31日現在、その寄附総額は約5億1519万円となっております。皆さまのご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成24年6月1日から平成24年8月31日までの間に入金を確認させていただきました個人88名、2法人・団体等の寄附者すべての皆さまへ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前がもれている場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局(電話:096-342-2029)までご連絡ください。皆さまの更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【25万円】 谷口 功(155)
 【10万円】 医療法人社団愛天会(22) 尾原 祐三(15) 菊池 健(60)
 【5万円未満】 赤嶺 富春

2. お名前のみ掲載を希望された寄附者

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

荒木 昌典[2]	市成 明子	岩本 武士[2]	上村 順一[2]	宇佐美しおり[10]	太田 貞之[2]	緒方 義也[2]
勝目 俊郎	北本 康則	児玉 勝志	小山 公子	坂田 満生[6]	佐田 英信[2]	貞島 博通
嶋田 英剛[2]	嶋田 俊治	下山 高生[5]	須山 健三	竹迫 清	長 順一郎[3]	富永 雄吉[2]
内藤 秀信	野口 真由美	野村 芳雄[4]	橋口 治[5]	橋口 純[3]	平尾 将基	平田 智美[4]
藤林 英憲	本坊 民子	正木 秀信[2]	松尾 喜美子	蓑田 眞幸[4]	村井 淳男[5]	森田 敏朗[2]
柳田 敏孝[4]	山本 廣基					

医療法人邦真会桑原クリニック[3]

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されない寄附者

個人47名

REPORT

「熊本大学同友会」第26回総会が開催されました

熊本大学同友会第26回総会が8月31日(金)、ホテル日航熊本で開催されました。

同会は本学卒業生を会員とし、相互の研さんや親睦を深めると共に、地域社会の発展に寄与することを目的に活動しています。

当日は来賓として谷口学長や岡村宏熊本大学同窓会連合会会長、各学部の学部長・同窓会会長のほか、多数の会員が参加。平成24年度事業計画および予算等が承認され、代表幹事の一人である米満弘之氏の退任に伴い、新たに小野友道氏(医学部・昭和41年卒)が選任されました(森正臣、赤星敦

両代表幹事は留任)。

懇親会に先立ち、熊本市民病院診療部長の橋本洋一郎氏が「脳卒中の予防

と治療—突然襲いかかる脳卒中の恐怖—」というテーマで講演。ウィットに富んだ講話で会場を盛り上げました。



熊大力、全開!!
今年もやります。

HONKYU-SAI

本九祭

医学部から
パワー発信!

時/2012年11月3日[土]
~11月4日[日]
所/本荘・九品寺キャンパス
(医学部)

蕃滋祭

熊薬の本気、
見せます

時/2012年11月3日[土]
~11月4日[日]
所/大江キャンパス
(薬学部)

BANJI-SAI

紫熊祭

“熊粹祭”から
“紫熊祭”に
生まれ変わりました!

時/2012年11月2日[金]
~11月4日[日]
所/黒髪キャンパス

SIGMA-SAI



Kumamoto University

国立大学法人
熊本大学

〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1
TEL.096-344-2111(代)

<http://www.kumamoto-uac.jp/>

■黒髪キャンパス ■本荘・九品寺キャンパス ■大江キャンパス